

教区新報

第2号

発行 浄土真宗本願寺派
兵庫教区教務所
〒650 神戸市中央区下山手通8丁目
1番1号 本願寺神戸別院内
電話 (078) 341-5949

あらためて『れんけん』とは

兵庫教区で「連研」が始まったのは、昭和51年ごろであったかと思えます。それぞれ工夫や努力を重ねてやってきました。一度自覚確認しなければならぬと思うの、一歩前進二歩後退、途中で放り出したこともありました。

ああでもない、こうでもない、ああすれば、こうすればと、一つとして特効薬のない課題ばかりを背負って、全く紆余曲折の10年余であったように思います。

いまその10年を顧みてみますと、当初予期もしなかったような成果のあがっていることも確かです。

一、旧い寺壇関係を超えて、地域に広く開かれた教化の体制がうまれました。
二、各寺(住職・寺族)が「組」の運動・教化という広い場面で連帯しはじめた。
三、そして、その寺壇構造を超えた運動・教化のいとなみのなかで、各寺の教化や経営も格段に活性化していった。

狭い寺壇構造のなかに閉ざされた教化——そしてそのセクト主義がいろんな差別を生んでいった——が、それが「連研」という運動によって今やいささかなりとも超えられようとしていることは、今あらためて見なおさなければならぬ大事な点であると思えます。

ともあれ、われわれは、ここ10年有余、そのような道を、そのような方向へ歩みつけて来たのです。

そうであるにもかかわらず、いま、私たちにあるこの倦怠感はいったいなんでありましょうか。

どんなことでも、10年継続すればマンネリになり、けだるさを感じはじめます。そ

いものです。
そしてことに研修員の皆さんには、毎回のことを繰り返し確認していただくことが必要でしょう。そのために、ご本山が示している毎回のプログラムにも、毎回、必ず開会式をしなさいとありますのは、そのことを要請しているのだと思えます。
ある教区内の組の研修員に対する案内の一部を参考に掲げます。

『れんけん』とは

「れんけん」(門徒推進員養成連続研修)をなんのために受けるのでしょうか。

一、「名ばかりの門徒」形だけの念仏者ではなかったかという反省のうえに立つて、あらためて「ほんとの門徒」「真の念仏者」となろうとするための研修です。(反省)

二、そのためには、もはや人ごととしてではなく、自分の生死の問題を、あらためて「おみのり」(親鸞さまの歩まれた道)に問い聞き尋ねる研修でなければなりません。(主体性)

三、したがって今までのように、先生や講師の話を、ただうけたまわるといふようなものであつてはなりません。それぞれの人が、自分の胸のうち、くらしの中にもつている思いを互に聞き合い語りあうという研修でなければなりません。(自主性)

四、そして、そこで学びえた「真実の生きかた」を、人に伝えるために、私のできることは何かを各人考え合い研究し合う研修会です。(行動性)

おおまかな言い方ですが、「れんけん」はこの四つの点を踏みはずしては連研にはならないということを、私たちはいつも心において最後まで励みたいと思えます。

企画推進室 室長

西池 哲 俊

御同朋の社会をめぐって②

出石組正福寺 山崎 一朗

「御院家さん、どうも御無沙汰してまして、もういいゆうことになるがな。やっぱりお念仏の心は人間同志が差別しあつたり、傷つけあつたりするのをそのままにはしておけないところから始まるのところがやろか。」

「そりやそうでしょうな。でもな御院家さん、人間だれでも差別心や傷つけあう心持ってますで、自分で持つていながら他人にそんなこと言えますやろか。」

「そうかな。それ反対とちがうやろか。自分にそんな心ないから言えるとなつたら、今の話やないが世の中言える者は一人もおれんようにならな。」

それよりもな、あんたに聞くが、あんた毎日仏さんにお札するやろ。」

「そりやしてますやろか。」

「どない思うてしてはる?」

「どないて。御先祖さんおおきに、今日も一日無事平穏でありますように……」

「じゃ、なんで?」

「なぞって、仏さんの教えからしてもあれはずにはおれんもんやで。」

「そんなことおまへんで、そんならほかの宗旨もみんなやってますのや?」

「よそのことは知らんがやめてはるやろ。」

「ええ加減な返事したらあきまへんが、私ら職場や会議なんかで他の宗旨の者と話しますが、そんなこと知らん言いますで。」

「それはその人が知らんだけのことやろ。それよりなんかいな同朋講座するのが気にいらんいうのかいな。」

「そんなこと言うてしまへんが、ただなんでも私らの宗旨だけがこんなに強う言うのかいなと思ひましてな。結局なんでも、私らの宗旨、浄土真宗の門徒には同和地区の人が多いからとちがいますのや。」

「多い少ないの問題やないと思うな。多かつたらする、それなら少なかつたらせんて。」

「まさかあ。」

「まさかちゆううことがあるか!」(未完)

